Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 17第35号
2017年（平成29年） 12月15日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電話 （03）3534-7411（代）
FAX （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ http://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

11/30~12/6のNYMEX・WTIは、55.96～58.36ドルの範囲でやや軟化して推移した。

12月7日は、前日のEIA（米エネルギー情報局）の米国在庫週報を受けた大幅続落の反動で買い戻しが目立ち、また、ナイジェリアの石油産業のストライキによる供給懸念が広がり、反発した。1月限の終値は前日比0.73ドル高の56.69ドルだった。

週末の12月8日は、中国税関当局による11月原油輸入実績（日量901万バレル、前月比同171万バレル増で過去2番目の高水準）の発表、前日来のナイジェリアからの供給懸念から、続伸した。ただ、この日のベーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が751基と前週比2基増で3週間連続の増加となったことが、圧迫材料となった。1月限の終値は前日比0.67ドル高の57.36ドルだった。

週明け11日は、ニューヨーク中心部での爆弾テロや北海フォーティーズ原油パイプラインの漏洩事故による稼働停止を材料に3営業日続伸した。1月限の終値は前週末比0.63ドル高の57.99ドルだった。

12日は、先日来の北海パイプラインの停止などによる買いが先行したが、為替市場におけるドル高・ユーロ安の進行に伴い売りが優勢となり、4営業日振りに反落した。1月限の終値は前日比0.85ドル安の57.14ドルだった。

13日は、EIA週報で、市場予想を上回るガソリン在庫の積み増しがあり、また米国産油量が8週連続で増加したことなどから続落した。1月限の終値は前日比0.54ドル安の56.60ドルだった。

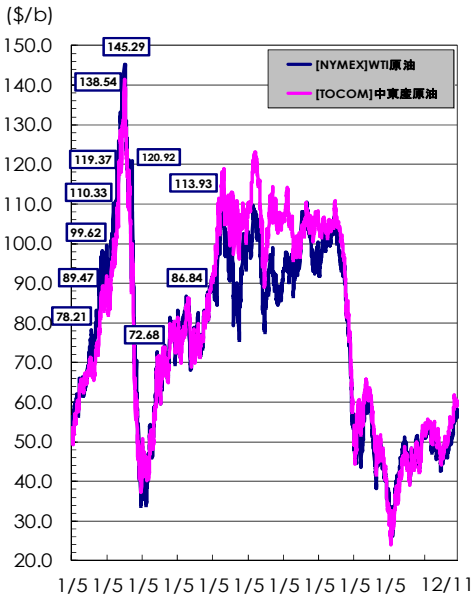
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（1月渡し）は、前週60.00～61.00ドルの範囲で推移した。12月7日59.30ドル、8日60.00ドル、11日60.90ドル、12日は62.50ドル、13日61.10ドルで推移した。

為替は、前週112.05～112.77円の範囲で推移した。12月7日112.51円、8日113.29円、11日113.65円、12日113.58円、13日113.42円で推移した。

主要元売会社の12月第3週に適用する卸価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに、全社据え置きだった。原油価格は値下がりしたが、為替レートの円安がこれを相殺し、原油調達コストは小幅な値下がりとなった。

そのような中で、12月11日時点の小売価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油は同0.1円の値上がり、灯油も同0.3円の値上がりだった。ガソリンは13週振りに値上がりが止まり、軽油は13週連続の値上がり、灯油も13週連続（18ﾘｯﾄﾙベース）の値上がりだった。この週（12月第2週）の原油コストはわずかに値下がりしたが、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに据え置かれた。

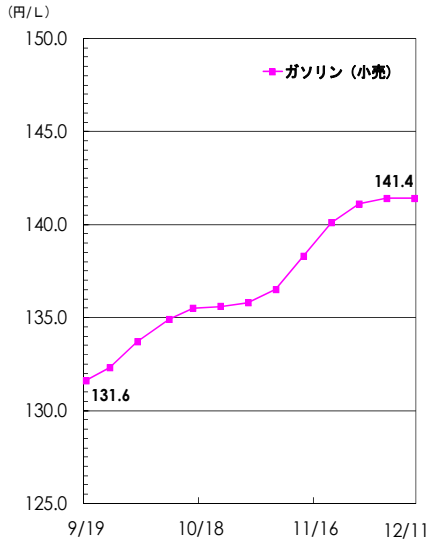
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	12/3 ～ 12/9	3,749	▲ 2	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	95.7	➡ 0.0	▲ －
需給	原油在庫量	（千kl）	12/9	13,161	▼ -778	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	12/11	60.02	▼ -0.53	▲ 5.9
価格	WTI原油 (NYMEX)	（$/bbl）	12/11	57.99	▲ 0.52	▲ 5.2
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	11月中旬	57.66	▲ 0.88	▲ 8.58
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	41,257	▲ 801	▲ 8,842
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	113.74	▼ -0.46	▼ -8.75
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	12/11	114.65	▼ -0.88	▲ 1.82



（単位：千kl、円/㌔）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		12/3 ～ 12/9	1,055	▼ -20	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	949	▼ -37	▼ –
	輸出		〃	76	▲ 24	▲ –
	在庫		12/9	1,700	▲ 30	▼ –
価格	業転［陸上ローリー 4地区平均］	(RIM)	12/5 ～ 12/11	58.8	➡ 0.0	▲ 11.9
	先物［期近物/終値］	(TOCOM/東京湾)	12/5 ～ 12/11	57.4	▼ -0.4	▲ 9.2
		(TOCOM/中部)	12/11	57.9	▲ 0.1	▲ 9.9
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	12/11	141.4	➡ 0.0	▲ 13.7

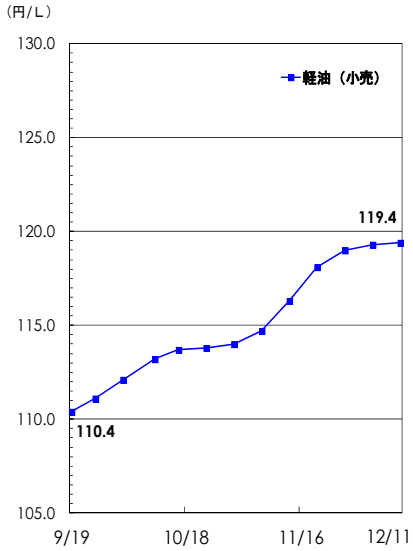
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

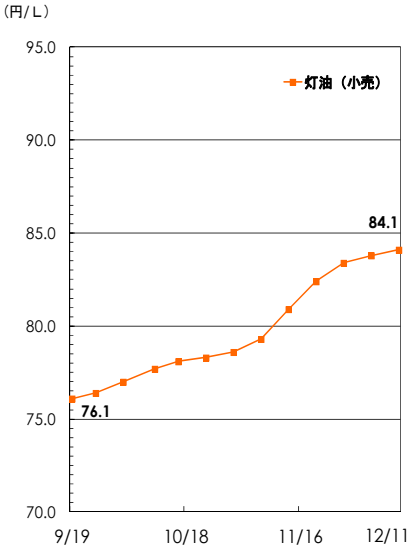
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		12/3 ～ 12/9	854	▼ -39	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	663	▼ -64	▲ –
	輸出		〃	153	▼ -89	▲ –
	在庫		12/9	1,415	▲ 39	▼ –
価格	業転［陸上ローリー 4地区平均］	(RIM)	12/5 ～ 12/11	58.6	➡ 0.0	▲ 10.7
	先物［期近物/終値］	(TOCOM/東京湾)	12/5 ～ 12/11	58.0	➡ 0.0	▲ 12.0
		(TOCOM/中部)	12/11	–	–	–
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	12/11	119.4	▲ 0.1	▲ 12.4

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		12/3 ～ 12/9	449	▼ -11	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	522	▲ 91	▲ –
	輸出		〃	49	▲ 49	▲ –
	在庫		12/9	2,432	▼ -122	▲ –
価格	業転［陸上ローリー 4地区平均］	(RIM)	12/5 ～ 12/11	60.8	▼ -0.1	▲ 7.1
	先物［期近物/終値］	(TOCOM/東京湾)	12/5 ～ 12/11	59.1	➡ 0.0	▲ 6.2
		(TOCOM/中部)	12/11	60.5	▲ 0.2	▲ 5.4
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	12/11	84.1	▲ 0.3	▲ 12.4



■ 関連情報

1　海外/原油

12月13日のNYMEX市場WTI原油は、OPEC(石油輸出国機構)が11月の原油生産量が前月から0.4%減少したと公表したこと、北海油田のパイプライン損傷が修復に数週間かかると報じられたことなどから値上がりで始まったが、午後発表の米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比510万バレル減と市場予想(380万バレル減)は上回る取り崩しであったものの、前日のAPI(全米石油協会)の速報値を下回ったこと、ガソリン在庫は740万バレル増と市場予想を2倍以上上回る積み増しであったこと、米国産油量が8週連続増加したことから、米国の供給過剰感が強まり続落した。1月限の終値は前日比0.54ドル安の56.60ドル、2月限の終値は前日比0.57ドル安の56.59ドルだった。

EIAによると、12月11日時点のガソリンの小売価格は前週比1.5セント値下がりの1ガロン2.485ドル(75.2円/㍑)となった。ディーゼルは前週比1.2セント値下がりの2.910ドル(88.0円/㍑)。ガソリンは4週連続の値下がり、ディーゼルは2週連続の値下がり。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、平成29年12月3日～12月9日に休止したトッパーは前週同様ゼロとなった（全処理能力は351.9万バレル/日）。

原油処理量は374.9万klと、前週に比べ0.2万kl増加。前年に対しては15.4万klの減少。トッパー稼働率は95.7%と前週と同じ、前年に対しては3.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/1.8%減、ジェット/32.9%増、灯油/2.3%減、軽油/4.4%減、A重油/23.4%増、C重油/1.6%減。今週のC重油の輸入は1.1万kl（前週比4.2万kl減）。軽油の輸出は15.3万kl（前週比8.9万kl減）。

出荷（輸入分を除く）は、前週比ではガソリン、軽油が減少となり、その他の油種で増加した。前年比では、ガソリン、ジェット、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。
ガソリンの出荷は94.9万 kl（対前週3.8%減）と2週振りに前週比、前年比で減少となり、6週連続で100万klを下回った。

ジェット10.1万kl（対前週14.8%増）、灯油52.2万kl（対前週21.1%増）、軽油66.3万kl（対前週8.8%減）、A重油26.2万kl（対前週4.8%増）、C重油30.1万kl（対前週44.6%増）。

（単位：千KL）

	今週 (12/3 ~ 12/9)	前週 (11/26 ~ 12/2)	前週比	
ガソリン	949	986	▼ -37	(-4%)
ジェット燃料	101	88	▲ 13	(15%)
灯油	522	431	▲ 91	(21%)
軽油	663	727	▼ -64	(-9%)
A重油	262	250	▲ 12	(5%)
C重油	301	208	▲ 93	(45%)
合　計	2,798	2,690	▲ 108	(4%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

12月9日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、軽油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、軽油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは170.0万kl、前週差3.0万kl増。前年に対しては0.8万kl少ない。

灯油は243.2万kl、前週差12.2万kl減。前年に対しては25.8万kl多い。

軽油は141.5万kl、前週差3.9万kl増。前年に対しては20.0万kl少ない。

A重油は66.7万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては4.6万kl少ない。

C重油は198.9万kl、前週差10.6万kl減。前年に対しては15.0万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (12/9)	前週 (12/2)	前週比	
ガソリン	1,700	1,670	▲ 30	(2%)
ジェット燃料	1,001	978	▲ 23	(2%)
灯油	2,432	2,554	▼ -122	(-5%)
軽油	1,415	1,376	▲ 39	(3%)
A重油	667	658	▲ 9	(1%)
C重油	1,989	2,095	▼ -106	(-5%)
合　計	9,204	9,331	▼ -127	(-1.4%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

12月5日から12月11日までの原油コストは、原油価格は値下がりし、為替レートの円安がこれをやや相殺したが、原油コストはわずかに値下がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン112円台で値下がり、軽油58円台でわずかに値下がり、灯油60～61円台でやや値下がりし推移した。

海上スポット価格は、ガソリン113～114円台で出入りしつつ値上がり、軽油61円台で横ばい、灯油59～60円台で出入りしつつやや値上がりし推移した。

先物価格は、ガソリン110～111円台で出入りしつつやや値上がり、軽油58円台で横ばい、灯油58～59円台で動きつつ値上がりし推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きだった。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

12月5日から12月11日の原油コストはわずかな値下がりだったが、製品スポット市況は、ガソリン・先物と灯油・陸上を除いて、横ばいないしわずかに値上がりした。

12月第3週（12月14日～20日）適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格（12月5日～11日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、ガソリンは横ばい、灯油は0.1円の値下がり、軽油は横ばいだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.2円の値上がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.4円の値下がり、灯油は横ばい、軽油も横ばいだった。原油価格は値下がりし、為替の円安がこれをやや相殺し、原油コストはわずかな値下がりだった。

12月第3週の大手元売の卸価格は、引き続き、ガソリン・軽油・灯油ともに全社据え置きだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

（RIM）　（単位：円/㌔㍑）

［陸上ローリー 4地区平均］		今週　(12/5 ～ 12/11)	前週 (11/28 ～ 12/4)	前週比
スポット価格	レギュラー	58.8	58.8	➡ 0.0
	灯油	60.8	60.9	▼ -0.1
	軽油	58.6	58.6	➡ 0.0

（TOCOM）　（単位：円/㌔㍑）

［期近物/終値］〔平均〕		今週　(12/5 ～ 12/11)	前週 (11/28 ～ 12/4)	前週比
先物価格	レギュラー	57.4	57.8	▼ -0.4
	灯油	59.1	59.1	➡ 0.0
	軽油	58.0	58.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値　（12/5～12/11実績値）　（単位：円/㌔㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	➡ 0.0	▼ -0.4	▼ -0.2
灯油	▼ -0.1	➡ 0.0	➡ 0.0
軽油	➡ 0.0	➡ 0.0	➡ 0.0
A重油	➡ 0.1		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

12月11日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの141.4円、軽油は同0.1円高の119.4円、灯油は同0.3円高の84.1円だった。ガソリンは13週振りに値上がりが止まり、軽油は13週連続の値上がり、灯油も13週連続（18ℓベース）の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは25道府県で、横ばいは8府県、値下がりは14都県だった。全国最安値は埼玉県の136.5円（同横ばい）、次が千葉県の137.2円（同0.1円高）、最高値は長崎県の148.2円（同1.1円安）だった。最も値上がりしたのは、2.6円高の高知県（143.8円）だった。

先週の原油コストはわずかに値下がりし、元売会社の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社据え置きとなり、13週振りにガソリン小売価格の値上がりが止まった。今週の原油価格は値下がりし、為替レートの円安がこれをやや相殺し、原油コストはやや値下がりした。元売会社の卸価は、各油種とも全社据え置きだった。次週（12月18日）のガソリン・灯油の小売価格は横ばいが予想される。

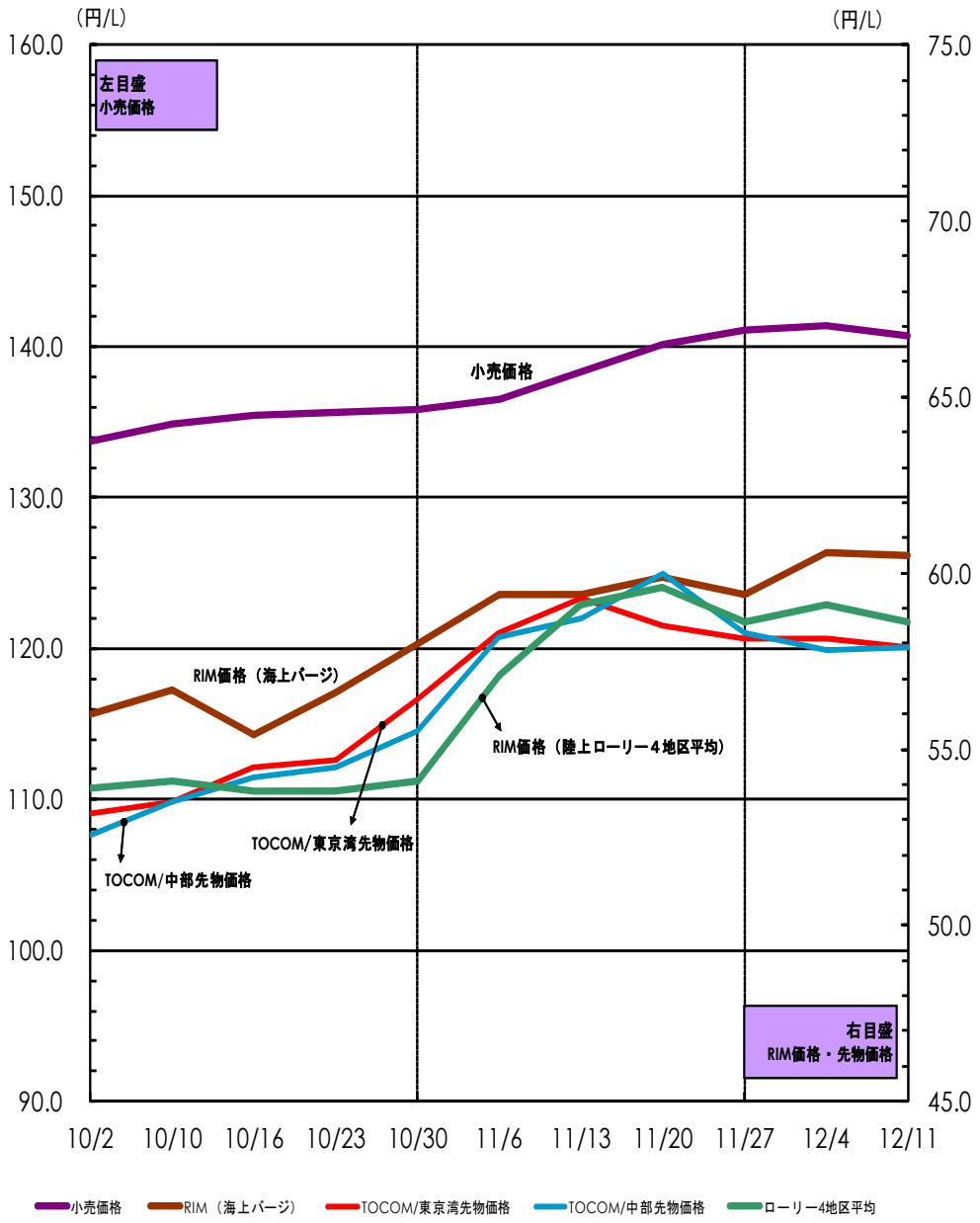
（単位：円/㌔㍑）

（資エ庁公表）［週動向］		今週　(12/11)	前週　(12/4)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	141.4	141.4	➡ 0.0	08/8/4	185.1
	灯油	84.1	83.8	▲ 0.3	08/8/11	132.1
	軽油	119.4	119.3	▲ 0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/10/2　～　2017/12/11)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（http://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2017第36号）の公表は、12/22（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（平成29年9月末現在）は、12月13日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。